



3年前除  
3年加入



公益社団法人 日本臨床細胞学会  
2023年度第2回理事会 議事録

B

日時： 2023年6月11日 (土) 7:20-8:20

場所： 名古屋国際会議場 212室

WEB 同時開催

役員総数： ~~42~~<sup>43</sup>名 (理事 40名、監事 3名)

出席総数： 理事 40名

(理事) (現地) 岡本 愛光、阿部 仁、有廣 光司、伊藤 仁、伊藤 潔、井上 健、伊豫田 明、大平 達夫、川名 敬、近内 勝幸、齋藤 豪、佐藤 之俊、澁木 康雄、下田 将之、進 伸幸、田尻 琢磨、田畑 務、都築 豊徳、豊田 進司、長尾 俊孝、中村 直哉、西野 幸治、羽場 礼次、藤井 多久磨、前田 一郎、松浦 祐介、三上 芳喜、宮城 悦子、森井 英一、森定 徹、森谷 卓也、柳田 聡、山上 亘、山口 倫、山下 博、横山 正俊、横山 良仁、若狭 朋子、渡利 英道

(理事) (WEB) 板持 広明

出席総数： 監事 3名

(監事) (現地) 長村 義之、佐々木 寛、土屋 眞一

(膝癌腹腔細胞診標準化ワーキンググループ) (現地) 平林 健一

(総務委員会幹事) (現地) 片岡 史夫、星 利良

(総務委員会幹事) (WEB) 和田 直樹

(制度審議委員会幹事) (現地) 佐々木 陽介

(総会議長) (現地) 野村 弘行

本理事会は、定足数の半数以上(理事40名中40名出席)を満たしたので有効に成立した。テレビ会議システムにより、出席者の音声即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時適格な意見表明が互いに行える状態が確認され、議題の議事に入った。

議長： 進 伸幸 旧総務委員会委員長の司会進行

第64回春期大会会長挨拶(藤井 多久磨 大会長)

天候や地震などが心配されたがそのようなこともなく、予想を超える現地への来場者に感謝申し上げます。

理事長選任

満場一致をもって、岡本 愛光 理事長の選任が承認された。

### 副理事長選任

満場一致をもって、森井 英一 副理事長[総括、事務局運営、編集、認定試験、検査士、国際交流、IAC、渉外]、田畑 務 副理事長[教育、学術、財務、専門医制度、専門医、臨床研究]の選任が承認された。

### 各種委員会委員長等選任

常置委員会委員長、委員会内委員会委員長、理事長直属委員会委員長、監事の選任について報告され、何れも満場一致をもって承認された。

議長： 進 伸幸 新総務委員会委員長の司会進行

本議事録において定款第23条第3項で定める、理事長、副理事長及び常務理事の職務執行状況報告については\*印を付す。

本理事会の開催にあたり、\*岡本 愛光 理事長、\*森井 英一 副理事長[総括、事務局運営、編集、認定試験、検査士、国際交流、IAC、渉外]、\*田畑 務 副理事長[教育、学術、財務、専門医制度、専門医、臨床研究]の挨拶および報告が行われた。

#### \*理事長報告・挨拶（岡本 愛光）

伝統ある本学会の理事長就任をお認めいただき感謝申し上げます。第64回春期大会を開催していただいている藤井 多久磨 大会長、都築 豊徳 プログラム委員長、野村 弘行 事務局長はじめ関連の皆様方に御礼申し上げます。昨日の会長企画「歴代の理事長が語る本学会の未来」を拝聴し、先人達の熱い思いとご尽力による日本で唯一の細胞診断を行う公益社団法人であるということ、そして学術団体としてアカデミズムを追求する重要性、細胞診の精度管理を含めた癌検診のプログラムの精度管理を視覚化する制度を設立していくことの重要性、国際化を含めた本学会からの発信の重要性を強く感じた。佐藤 之後 前理事長の流れを継承しながら、学術団体として積極的な研究支援・精度管理を推進し、また医療現場を守ることとともに細胞診の情報を積極的に発信していきたいと考えている。また学会運営に関しては効率化・スリム化を図り、アフターコロナのAIやデジタルトランスフォーメーションなどの変化にも対応しながら、学会の発展に尽力したいと考えている。

#### \*副理事長報告（森井 英一、田畑 務）

森井 英一 副理事長： 総務関係については、電子化が大切であると考えている。スリム化とデジタル化が必要であり、評議員の審査がオンラインで可能になったが、今後は選挙の電子化を進めていきたい。編集関係については、投稿数を増やすことと良質な論文を集めることに尽力したい。認定試験・検査士関連については越えるべき課題もあり、委員長の先生方と協力しながら対応していく。国際交流については、IACとの関係も重要であると考えており、今後海外との交流も活発になっていく中で引き続き推進していきたい。渉外に関しては、他学会・他領域との折衝は大切であり、委員長の先生方と協力しながら進めていく。

田畑 務 副理事長： 会員数の多い本学会の副理事長を拝命し身の引き締まる思いである。  
岡本 愛光 理事長を支え学会の発展に尽力したい。なかでも教育に関して、指導医・検査士  
を多く育て会員数を増やしていきたいと考えている。

#### 前回（2023年度第1回理事会）の議事録について

2023年度第1回理事会の議事録確認が行われた。

#### 庶務報告（2023年5月30日現在）

全会員数：13,033名

（正会員 5,690名、準会員 7,114名、名誉会員 36名、功労会員 179名、図書会員 14件）

細胞診専門医および細胞診専門歯科医数：3,157名（実数）

（認定：細胞診専門医 4,020名、細胞診専門歯科医 120名）

FIAC：75名 MIAC：19名

細胞検査士数：8,075名（実数）（認定 11,187名）

CT(IAC)：3,725名

物故会員（2023年4月4日～2023年5月30日）

正会員 小沢 広明 殿（岡崎市民病院 病理診断科）

黙祷

#### 第64回春期大会報告（藤井 多久磨 大会長）

約6,700名の事前登録をいただいた。今後第3次登録もありさらに増加すると考えてい  
る。ハイブリッド開催は、全体の参加者の増加は見込めるが、現地の参加者数が読めない  
ところが主催側としては会場の配置などに苦慮する部分である。開催にあたり多くの皆様  
にお世話になり、とくに検査士会の皆様や学生の方々にもご協力をいただき感謝申し上げ  
る。

#### 大会準備状況

第62回秋期大会（横山 正俊、福岡国際会議場・福岡サンパレス、2023年11月4日  
（土）～5日（日））、第65回春期大会（森井 英一、大阪国際会議場、2024年6月7  
日（金）～9日（日））、第63回秋期大会（進 伸幸、幕張メッセ、2024年11月16日  
（土）～17日（日））、第66回春期大会（田畑 務、京王プラザホテル、2025年6月  
27日（金）～29日（日））、第64回秋期大会（有廣 光司、広島国際会議場エリア、2025  
年11月29日（土）～30日（日））の準備状況に関する報告が行われた。

## 審議事項

### 1. 会員資格停止者について (0.02\_資料1\_会費滞納者一覧)

審議結果⇒承認 (2年以上の会費滞納者の資格停止が承認された。)

### 2. 2026年度(第67回)春期大会長選出について

岡本 愛光 理事長より、大会長の選出メンバーにおける厳正な審査の結果、宮城 悦子 理事(横浜市立大学産婦人科)を推薦することとなった旨が報告された。

審議結果⇒承認(選出された宮城 悦子 理事より挨拶がなされた。)

学術集会長候補者を選出するメンバーは以下のとおりであり、選出作業は本理事会を中断して行われた。

理事長 岡本 愛光

副理事長 森井英一、田畑 務

学術委員会委員長 前田 一郎

前理事長 佐藤 之俊

(役員等選任に関する施行細則第2条より)

## 報告事項【常置・各種委員会から報告】

### 総務委員会(委員長 進 伸幸)【資料1,2】

[報告事項]

1. 学会内、他学会との調整を行い、円滑に学会運営が行われるよう対処している。
2. 5月8日にwebで2023年度第1回委員会を開催した(資料1)。理事候補選出のオンライン選挙化に向けて、関連する施行細則内容を、2023・2024年度第2回理事候補選挙管理委員会で検討された原案(資料1)を基にweb委員会で審議した。その結果、オンライン選挙に関する申し合わせ事項は、①申し合わせまたは内規とするか、②『役員等選任に関する施行細則』の附則に追記するか、③新規に『(仮)理事候補選出オンライン選挙に関する施行細則』としてまとめる、のいずれかの方針とすることとした。公益社団法人として一般の会員方にも明示しておく必要があれば②か③となるので、公認会計士に法的な観点から一般に公開できる形にしておくことが望ましいかどうか確認を取った上で、後日通信委員会を開催して審議することとした。他学会のオンライン選挙に関する施行細則などの文面を参考にしてまとめ直して、法的に問題ないかどうか確認して、理事会で審議していただいた上で、制度審議委員会に諮ることとし、来年度2024年度に行われる理事候補選出のオンライン選挙に備える。
3. 5月29日から6月4日まで第2回委員会(通信委員会)を開催した(資料2)。公認会計士からのご意見の内容が『理事候補者選挙のオンライン化に伴う施行細則の一部変更及び役員等選任に関する申し合わせの新規作成』については、公益法人として会員にも周

知すべき変更事項と考えられる。会員への周知にあたっては、新規に細則として HP に掲載する、または、現在の役員等専任に関する施行細則の附則に申し合わせ内容を追記する、のいずれでも可である』であったので、各委員の意見を確認した。多数の委員が、『役員等専任に関する施行細則』の附則として追記する案に賛成したので、附則として追記することとし、その内容は 6 月以降の新メンバーにて早期に委員会を開催して検討することとした。

〔審議事項〕

なし

情報処理委員会（委員長 川名 敬）【資料なし】

〔報告事項〕

1. ホームページへの【お知らせ】欄の掲載について（2023 年 2 月 24 日以降）

学会全般 …2 件

他学会 …15 件

その他：

- ・2023 年度 IAC 資格認定試験のご案内
- ・2023 年度サイトパソロジスト試験のご案内

2. ホームページの改修について

「基礎部分の修正（※以下 00-05 必須）」に関する説明と見積りを業者から送付があった。

STEP00：企画/設計/ディレクション

STEP01：ヒアリング（更新箇所の確認、運用方法の確認、課題の洗い出し）

STEP02：コンテンツの修正（HTML の修正、テキストの修正、PDF の軽量化）

STEP03：デザインの修正（コントラスト、画像の差替え、CSS の修正）

STEP04：情報構造の修正（各要素の配置の変更、情報の整理、メニュー変更）

STEP05：テーマの変更（外観の変更、運用ルールの策定）

実際の改修には、業者からのヒアリング、相見積取得など必要となってくることから、事務局より今回の見積もりを委員へ送付し、それを基に改修原案を作成して次期委員会へ提案することを検討する方針とした。

〔審議事項〕

なし

学術委員会（委員長 前田 一郎）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 2023 年度 学会賞・技師賞・班研究課題、最優秀論文賞の募集及び選考を行う。
2. 2023 年度最優秀論文賞の選考。
3. IAP 日本支部病理診断学術奨励賞選考委員として元井紀子先生（埼玉県立がんセンター病理診断科）を推薦した。

〔審議事項〕

1. ガイドラインの件で、本の場合には著作権は金原出版にあるが、PDF にした場合に日本臨床細胞学会に著作権があるという状態となっている。PDF を転用する場合にどこに問い合わせをするべきかが問題となる。学術委員会内の議論では、学術委員会内で審査することは問題ないが金銭的な問題が出てくる可能性もあり、金原出版にお願いした方がよいのではという意見が出ており、今後検討してく。

審議結果⇒継続審議

・都築 豊徳 理事：財務的な問題となるので、金原出版に著作権料を渡す形となるのはよくないと考える。

→ 法律的なことも絡むので、学術委員会だけで処理するのは困難であると考えている。

・岡本 愛光 理事長：学会の収入につながるものであるので、法律的な部分も調査した上で進めていただきたい。

→ 他の関連委員会と相談しながら進めていく。

・中村 直哉 理事：日本著作権協会が多くの学会と契約を結び対応してくれているので、そこを使うことを考えてはどうか。

計理委員会（委員長 山下 博）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 委員会構成案を作成した。
2. 2023 年 9 月に秋の監査会予定。
3. 2023 年 4 月 13 日(木)細胞学会事務局にて 2022 年度の決算を中心とした監査会を開催した。

〔審議事項〕

なし

編集委員会（委員長 都築 豊徳）【資料あり】

〔報告事項〕

1. 年間 6 回の電子ジャーナルの刊行、依頼原稿を予定（編数未定）。

2. 春期大会、秋期大会開催中に2回、それ以外に4回の編集委員会を開催予定。
3. 編集委員会で独自に特集を企画し、その領域に合致する論文の投稿を呼びかける。
4. 第64回日本臨床細胞学会総会に於いて、演題の一部を論文化する事業に関して試験運用を行って頂き、学術集会終了後、検証を行う。
5. 編集作業中の投稿論文。(資料1)

〔審議事項〕

1. 多くの学会では、学会賞を受賞する際に受賞者は学会誌への総説の投稿を義務づけている。趣旨としては、受賞に至った業績を会員に明示するとともに、その知識を広く学会員に伝える点にある。臨床細胞学会ではこのような規定がなく、受賞者の業績が学会員に伝えられていない危惧がある。この点は学会としての大きな損失と考える。次回の学会賞受賞者全て(賞の種類は問わず)に義務付けることを提案したい。義務付けることを提案したい。

審議結果⇒承認(学会賞のみを義務付ける)

質疑:

- ・藤井 多久磨 理事: 第64回春期大会では、27の教育講演の中で13名より学会雑誌への投稿を許諾していただいた。学術集会と学会雑誌はリンクしていくべきであり、学会賞を授けるのであれば、学会雑誌への投稿を義務づけるべきと考える。
- ・岡本 愛光 理事長: 賛成であるが、二重投稿の規定に反しないかの注意が必要である。  
→ 受賞記念であり、オーバerview的な内容になると思われるので、実際には問題にならないと考えている。また、投稿者自身がその点に関しては留意していただけると考えている。
- ・前田 一郎 理事: 班研究課題や最優秀論文賞は除いた授賞講演すべてとするのか。  
→ 学会賞のみを義務付けることとする。

**細胞診専門医委員会(委員長 近内 勝幸)【資料なし】**

〔報告事項〕

1. 令和4年度細胞診専門医資格更新について  
令和4年度の対象者ナンバーは、1-593、900-1005、1242-1308、1510-1587、1798-1876、2275-2366、2673-2765、3052-3137、3405-3500、8018-8034、8056-8060である。5年毎更新の新単位制度による3回目の資格更新となる。2月25日(土)の資格更新審査会(ハイブリット会議)後にさらに対応を続けた結果、現在までに全更新対象者819名中、更新可685名(83.6%)、前回保留更新で今回60単位以上取得で更新可10名(1.2%)、保留更新21名(2.6%)、単位不足・不備有未完了5名(0.6%)、資格失効22名(2.7%)、更新辞退49名(6%)、退会・退会申請中23名(28.1%)ご逝去4名(0.5%)となった。未申請者は0となった。単位不足者・不備有者にはeラーニング視聴証明提出や補足資料の提出を督促中。
2. 令和4年度教育研修指導医資格更新および新規申請について

資格更新対象者全 333 名中、更新可 316 名 (94.9%)、保留更新 2 名 (0.6%)、未申請 2 名 (0.6%)、更新辞退 5 名 (1.5%)、細胞診専門医資格失効による教育研修指導医資格失効 2 名 (0.6%)、退会 3 名 (0.9%)、逝去 3 名 (0.9%) となった。また、新規申請者全 76 名中、新規認定 43 名、既に教育研修指導医であった方 25 名、不備有未完了 7 名、申請辞退 1 名となった。未申請者 2 名には提出督促中。

3. 令和 5 年度細胞診専門医資格更新について

令和 5 年度の対象者ナンバーは、594-683、1006-1101、1309-1386、1588-1646、1877-2028、2367-2476、2766-2849、3138-3222、3501-3612、8035-8040、8061-8074 である。5 年毎更新の新単位制度による 4 回目の資格更新となる。今回も web 申請を予定している。

4. e ラーニングについて

e ラーニングシステムを構築し 2019 年 2 月より運用を開始した。現在までに共通講習 42 コンテンツ (含 指導医講習 9 コンテンツ)、領域講習 66 コンテンツ、検査士講習 25 コンテンツをアップした。

5. 細胞診の精度管理アドバイザーについて

新しいがん検診スタイルに適応した細胞診専門医あり方検討ワーキンググループ (齋藤豪委員長) の意向を受けて、細胞診精度管理アドバイザー (子宮頸がん) の位置づけや認定条件について検討中。2023 年度内には松浦祐介担当理事を中心に施行細則 (案) を作成予定。

〔審議事項〕

1. 令和 5 年度細胞診専門医資格認定試験について

令和 5 年度病理専門医試験 (機構専門医) 合否結果判明時期が、1 次審査結果発表が 9 月中旬、2 次審査が 10 月 20 日、認定証発行予定日が 11 月初旬から中旬と明記された。例年通り 9 月の細胞診専門医委員会の審査会で細胞診専門医試験受験希望者全員の審査を行い、病理専門医受験者は、合格なら受験可、不合格なら受験不可と取り決めを行い、病理専門医受験者の合否が確定後、受験可否を連絡するという流れが可能となり、病理専門医受験者の細胞診専門医試験受験を認めることが決定された。また、来年度以降の試験時期については、2 月頃が日程的に妥当とされた。

審議結果⇒承認

質疑：

- ・羽場 礼次 理事：今回の決定に感謝する。
- ・森井 英一 副理事長：専門医機構の認定証の発行に時間がかかることが原因であり、次年度以降も同様の問題が生じるようであれば専門医機構と掛け合っていく。

施設認定制度委員会 (委員長 長尾 俊孝) 【資料 2】

〔事業計画〕

1. 新規施設認定審査 (施設認定、教育研修施設認定)



2. 認定施設更新審査（認定施設、認定教育研修施設）
3. 年報提出依頼とその集計解析（認定施設、教育研修施設）
4. 内部精度管理：実地調査4カ所
5. 外部精度管理（コントロールサーベイ：全認定施設対象）：2年毎に実施（2024年度に実施予定）

〔報告事項〕

1. 2023年度 新規施設認定（案）について承認された（資料1）。
2. 2023年度 新規教育研修施設認定（案）について承認された（資料2）。

〔審議事項〕

なし

細胞検査士委員会（委員長 三上 芳喜）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 2023年度(第56回)細胞検査士資格認定試験  
一次試験は2023年10月28日(土)に、CIVI 研修センター新大阪東及び新大阪丸ビル別館にて実施する予定。  
二次試験は2023年12月2日(土)・3日(日)に、名古屋会議室 プライムセントラルタワー名古屋駅前店にて実施する予定。
2. 2023年CT (IAC) 資格認定試験  
2023年6月24日(土)に実施する予定。試験会場はA P浜松町を予定。学会ホームページに案内を掲載。

〔審議事項〕

なし

細胞検査士資格更新審査委員会（委員長 井上 健）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 2023年度細胞検査士資格更新作業  
69-137、273-363、585-759、1061-1146、1558-1829、2458-2692、3458-3666、  
4453-4725、5350-5618、6204-6369、6944-7208、7877-8158、8870-9151、  
9880-10149  
※2024年2～3月に更新審査予定

〔審議事項〕

なし

教育委員会（委員長 横山 良仁）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 2023年度 各種セミナー・講習会開催予定開催準備  
第132回細胞検査士養成講習会 2023年7月18日-7月30日（講義+鏡検）杏林大学保健学部実習室（井の頭キャンパス）募集人数40名  
第83回細胞検査士教育セミナー 2023年8月26日、27日（現地開催+後日Web開催による年一回開催へ変更）パシフィコ横浜  
第86回細胞検査士ワークショップ 2023年9月中旬予定 2日間（土、日）予定 現地実習+Web 講義 秋田大学講義室  
第87回細胞検査士ワークショップ 2024年2月または3月予定2日間（土、日）予定 現地実習+Web 講義 場所未定  
第48回細胞診断学セミナー Web 講義+2023年8月5日-8月6日（現地実習）杏林大学保健学部実習室（井の頭キャンパス）募集人数60名
2. 4月11日 教育委員会開催（Web）

〔審議事項〕

なし

渉外・広報委員会（委員長 森定 徹）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 会員へ広報を行う。
2. 他学会との会議に参加し、情報を収集・共有することによって、本学会との連携を更にレベルアップする。
3. 広報事業として、学会の存在を更に周知させるために諸団体が開催する公開講座や関連学会を積極的に後援していく。
4. 学会 HP のサイトポリシー改訂作業を開始した。

〔審議事項〕

なし

社会保険委員会（委員長 若狭 朋子）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 2024年診療報酬改正に向け、要望書を作成するとともに、内保連、厚生労働省など

と交渉を進め、あるいは対外的に活動していく。

(1) 今後の予定

2023 年 6 月 3 日 内保連より提案書を厚労省に提出

2023 年 6 月中旬～7 月中旬 厚労省のヒアリングの予定

(2) 令和 6 年度診療報酬改定提案書

A 区分

1. 感染対策向上加算 チェック項目の追加

未記載項目

1. 婦人科子宮頸部細胞診機械判定加算

既記載項目

1. 婦人科細胞診への診断料付加

2. 体腔液（胸水、腹水、髄液）細胞診での免疫染色病理標本作成

3. 乳癌、甲状腺癌への迅速細胞診（検査中の場合）の適応拡大

4. 液状化検体細胞診加算の見直し

共同提案として以下を提案予定

1. 呼吸器疾患診断のための細胞診検体における特殊染色（日本呼吸器内視鏡学会）

2. セルブロック法による病理標本作製および免疫染色（免疫抗体法）（乳癌の追加）  
（日本乳癌学会）

3. 悪性腫瘍遺伝子病理組織標本加算（日本病理学会）

4. がんゲノムプロファイリング検査病理組織標本作製料（日本病理学会）

5. 国際標準病理診断管理加算（日本病理学会）

6. 病理診断デジタル化加算（日本病理学会）

7. 病理検体電子処理加算（トラッキング）（日本病理学会）

8. DNA メチル化プロファイル病理標本作製（日本病理学会）

9. がんゲノムプロファイリング検査病理組織標本加算（病理医の技術評価）（日本病理学会）

10. 組織診断料（毎回算定）（日本病理学会）

11. 迅速細胞診（検査中の場合）（日本病理学会）

12. 悪性腫瘍病理組織標本加算（日本病理学会）

13. ミスマッチ修復タンパク免疫染色（免疫抗体法）病理組織標本作製（日本病理学会）

14. 特殊染色病理組織標本作製加算（日本病理学会）

15. 迅速細胞診（手術中の場合）出来高算定（日本病理学会）

〔審議事項〕

なし

地域連絡委員会（委員長 伊藤 潔）【資料あり】

〔報告事項〕

1. 2021年度地域学会・連合会活動報告の回収および集計を行った（資料）。  
（縮切：2023年2月下旬）  
2023年5月31日に全国地域代表者連絡会議を開催し了承されたため、データのイエローページへの掲載を進める。
2. 地域連携組織に対する活動支援について地域学会を通して行うための申請・審査を進める。
3. 地域連携組織に対する助成金による支援（子宮の日）について：  
1) 2023年度の地域連携組織に対する活動支援は、助成金5万円を上限とし、希望する地域学会は2023年3月末日までに、申請書を提出するように依頼を行った。

〔審議事項〕

なし

国際交流委員会（委員長 山口 倫）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 春期、秋期大会時におけるグローバルアジアフォーラムの支援  
第64回春期大会；2023年6月9日（金）～11日（日）；名古屋  
座長；Dr. Takayuki Enomoto, Dr. Margaret Cruickshank  
演者；Dr. Ida Ismail-Pratt, Dr. Jatupol Srisomboon, Dr. Koum Kanal,  
Dr. Jargalsaikhan Badarch, Dr. Hiroshi Nishio で開催予定  
第62回秋期大会；2023年11月4日（土）～5日（日）；福岡  
→ 横山会長とテーマ・演者等検討中
2. 日-韓、日-タイ、日-中 合同カンファレンス（合同会議）のサポート  
<韓国>  
第20回日韓細胞診合同会議；  
2023年9月2日（土） 群山市 Gunsan Saemangeum Convention Center にて開催予定  
<タイ>  
第28回日-タイカンファレンスを 2024年1月23-26日 チェンマイでの開催予定  
<中国>

2023年6月9-11日の武漢での第21回中国医学会細胞病理学全国大会にJSCC会員の参加を歓迎するとの連絡あり。

3. IAC, ECC のサポート
4. カンボジアとの交流サポート  
2023年秋期大会には1名招聘する予定
5. JHU-ASC-JACC joint cytopathology course の企画運営  
2022年度の第4回理事会で2023年に第3回 JHU-ASC-JACC joint cytopathology course をJSCCの事業として開催することが承認され、第4回以降に関しては第3回の開催状況を振り返って改めて協議することが決定した。  
第3回の場所：東医健保会館または慈恵会医科大学を検討中  
日時：2024年1月20日21日
6. 国際交流に関わる海外情報の収集および本学会からの発信

〔審議事項〕

なし

制度審議委員会（委員長 宮城 悦子） 【資料なし】

〔報告事項〕

1. 2023年度第1回理事会にて承認された以下の項目の改定を行った。  
定款・施行細則 p. 84 細胞診専門医会に関する施行細則  
定款・施行細則 p. 87 細胞検査士に関する施行細則
2. 細胞診専門医会および細胞検査士総会は理事会の後に開催される。承認は理事会での日付となるため、そこで新たな動議や承認内容に対する反対意見が出た場合は、改めて次回の理事会での審議事項となる。

〔審議事項〕

なし

医療安全委員会（委員長 伊豫田 明） 【資料なし】

〔報告事項〕

1. MSC ホットラインの事例が発生した場合の体制を整えておく  
(鑑定人およびそれに関する臨時の全域)
2. 医療安全セミナー開催  
第64回日本臨床細胞学会総会（春期大会）  
演題名：医療の質管理って何ですか？楽しく安全な医療提供のために  
演者： 藤田医科大学病院 医療の質管理室 室長 安田あゆ子先生  
日時： 6月10日（土）10時10分-11時10分（会期：2023年6月9日-11日）

〔審議事項〕

なし

倫理委員会（委員長 伊藤 仁）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 第 64 回日本臨床細胞学会総会春期大会の医療倫理セミナーについては、飯島祥彦先生（藤田医科大学医学部生命倫理学）、第 62 回日本臨床細胞学会秋期大会の医療倫理セミナーについては、河原直人先生（九州大学病院 ARO 次世代医療センター）の講演を予定している。
2. 2023 年 6 月 1 日(木)日本医学会主催の第 7 回研究倫理教育研修会（ウェビナー）に参加した。日本医学会医学雑誌編集ガイドラインに関する講演において、分科会として査読者の教育について要望があり、今後理事長および関連委員会と相談していきたい。

〔審議事項〕

なし

利益相反委員会（委員長 大平 達夫）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 役員および発表者(非会員含む)の事業活動に係わる COI 状態の判断ならびに助言、指導。
2. 会員個人の COI 申告に関する疑惑が生じた時の調査活動、関係する施設・機関との情報交換、改善措置の勧告に関すること。
3. 利益相反自己申告書の提出依頼をする。（本年度より自身でダウンロードしていただく形式となる。）

〔審議事項〕

なし

臨床試験審査委員会（委員長 渡利 英道）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 臨床試験審査委員会を 1 回、春期大会で行う。（諸事情で大会中に委員会が開催されない場合は、Web 会議などで代用する場合がある。）
2. 臨床試験が提出された場合には、随時、審査を行う。
3. 現在進行中の臨床試験は以下の通りである。
  - ・ 「一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診と HPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究」（CITRUS スタディ）

(臨床試験主任研究者、青木大輔先生)

- ・ 「呼吸器細胞診報告様式に関する研究」(臨床試験責任者、中澤匡男先生)の追加試験として、日本臨床細胞学会会員による新呼吸器細胞診報告様式の観察者間の一致率および教育効果による観察者間一致率の変動の検討(管理責任者、佐藤之俊先生)

〔審議事項〕

なし

#### IAC 連絡委員会 (委員長 佐藤 之俊) 【資料 1-3】

〔報告事項〕

1. IAC からの諸情報等について検討し対応する。
2. CTIAC と FIAC の試験が 2023 年 6 月 24 日(土)東京で行われる。
3. ICC2025 がイタリアのフィレンツェで 2025 年 5 月 11 日から 15 日に開催される。  
<https://www.siapecmdp.it/icc2025/> (資料 1-3)  
(ICC2028 は、韓国で開催されることが内定している)
4. 本年は、パノニコロウ先生の生誕 140 年ということで、出身国のギリシアでシンポジウムが企画されている。

〔審議事項〕

なし

#### 臨床試験ワーキンググループ (委員長 進 伸幸) 【資料 1,2】

〔報告事項〕

- ・ 『一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液化化検体細胞診と HPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究 (CITRUS study)』(山梨県、千葉県柏市)の最終結果公表に向けた作業

##### 1. 進行状況 (資料 1)

本研究では、2013～2014 年度に研究参加した子宮頸がん検診受診者の初年度以降のデータについて、医療機関に対する追跡調査、および一部のフォローできていなかった被験者に対する個別追跡調査を、研究事務局、データセンター(神戸医療産業都市推進機構 医療イノベーション推進センター)、EDC 管理担当(メディカルエッジ)、関係医療機関と協力して実施した。2022 年 11 月には統計解析責任者・担当者の同席のもと、症例検討会を開催し、データの固定を完了した。さらに試験実施計画書に定められた最終解析の詳細を定めた統計解析計画書(3.0 版)を策定した。現在はこの統計解析計画書に則ったデータの最終解析と、論文化を進めている。本ワーキンググループに関してはこの解析と論文化が

完了した時点での解散を計画している。

論文公表時には、研究開始当初よりホロジックジャパン株式会社より研究資金、研究資材の援助を受けたこと、本学会から研究費を含め人的、物的な援助を受けたことを明記する。

## 2. 2023 年度第 1 回臨床試験ワーキンググループ web 委員会を開催した（資料 2）。

- ・研究の現状について、CITRUS 研究事務局森定委員より、研究開始時からの臨床試験の進捗について PPT を用いて詳細に説明がなされ、また、途中で特定臨床研に変更して諸手続きも行い研究を続行し、現在、最終年度の健診結果の把握も含めたデータの収集・データ固定を終了しており、データの解析を進め、論文作成に着手していることが説明された。
- ・CITRUS 研究の PI である青木委員より、究めて多数例の被験者を追跡する長い研究となっており、RCT でありまだ結果を公表できない段階であること、また統計解析部門と統計解析計画書計画書（3.0 版）を策定して、この解析計画に則ったデータの最終解析を進めているとの説明がなされた。

- ・PI の青木委員、症例集積に多大な貢献をなされた、山梨担当の寺本前委員長、柏市担当の高野委員からも、被験者の移動に伴う追跡調査の困難さが報告された。

- ・最後に、データ解析・論文化において、ワーキンググループの各委員から、本研究遂行への敬意が表された。本ワーキンググループは論文化が完了した時点での解散となるが、それまでは、今後も学会が本研究をサポートする窓口として当ワーキンググループが関わっていくことが確認された。また、PI の青木先生より、論文データが出たところで当ワーキンググループにて意見を求める折には協力いただきたいこと、発表や論文化の際はホロジック社にも許諾を得ると同時に本研究のサポートをいただいたホロジック社に謝意を示したいとのコメントが寄せられた。

### 〔審議事項〕

なし

## ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループ（委員長 森井 英一）

### 【資料 1】

#### 〔報告事項〕

1. ゲノム診療時代において、細胞診は DNA/RNA の重要なソースであるが、その品質保証についての実証実験はされていない。本ワーキングでは様々な状況における細胞診検体における DNA/RNA 品質を検証する。
2. 指針初版の英語版が Pathobiology 誌に受理された。引き続き、臨床細胞学会誌での掲載を検討する。（資料 1）
3. 並行して実証実験のまとまったものをもとに指針の改訂作業計画を議論している。



〔審議事項〕

なし

ゲノム時代における呼吸器細胞診検体処理の精度管理ワーキンググループ  
(委員長 佐藤 之俊)【資料なし】

〔報告事項〕

1. ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループの事業に協力し、追加検討に協力する。
2. 指針初版の英語版が Pathobiology 誌に受理された。引き続き、臨床細胞学会誌での掲載を検討している。
3. 肺癌診療ガイドラインの関連項目 (CQ) に関する検討を進める。特に CQ17 の内容に関し、今後の改訂に際し細胞診の関与するウェイトを高めていきたい。

〔審議事項〕

なし

肺癌細胞診の診断判定基準の見直しワーキンググループ (委員長 佐藤 之俊)  
【資料なし】

〔報告事項〕

1. 新たに提案した4段階の判定基準を普及するため、呼吸器細胞診報告様式に関する追加研究 (Intra-interobserver variability の研究) の統計学的検討を進め、論文化する作業を行っている。
2. 日本肺癌学会とともに肺癌取扱い規約の改訂に協力する。
3. 異型細胞に関する検討を進める。

〔審議事項〕

なし

IAC Yokohama System 乳腺細胞診ワーキンググループ (委員長 森谷 卓也)【資料なし】

〔報告事項〕

1. 本邦におけるデータの収集を行い、解析した。
2. 成果を第61回日本臨床細胞学会秋期大会で発表した。
3. 結果を論文発表する予定である。
4. 乳癌取扱い規約 (日本乳癌学会) の改定に際し、掲載されるよう働きかけを行っている。

〔審議事項〕

特になし。

デジタルサイトロロジー・AI 検討ワーキンググループ（委員長 前田 一郎）

【資料なし】

〔報告事項〕

1. デジタルサイトロロジー・パソロジーで導入状況の調査
2. デジタルサイトロロジーを使用した診断・判定機器の調査
3. 「デジタル病理画像/運用ガイドライン（仮）」合同委員会（日本病理学会、日本臨床細胞学会、日本デジタルパソロジー研究会）

〔審議事項〕

なし

公益社団法人化 10 周年記念事業検討ワーキンググループ（委員長 佐藤 之俊）

【資料 1～2】

〔報告事項〕

1. 理事長直属のワーキンググループにより事業を推進する。記念誌は 2023 年度に完成する予定。また、SNS を中心に広報活動を行う。
2. 理事長直属のワーキンググループにより 3 つの事業を推進している。

その内容は

(1) 記念講演会・祝賀会については、2024 年 4 月 28 日（日）に東京国際フォーラムにて開催する。さらに、本学会の歴史、10 周年に会を行う意義、招待者（学会等）、など今後については検討を続ける。厚労関係者は今後の人事をみて確認することとなった。

(2) 記念誌編纂については、印刷体が 2023 年に完成するという予定通り進捗している。（2023 年 6 月中に刊行予定である。写真ページの追加および郵送費に関する費用で、約 90 万円の追加費用が発生した。）

(3) 広報活動については、キャッチフレーズを決めること、精度管理を含めた活動を行うこと、婦人科・細胞診断とは・非婦人科領域（ゲノム診療を含めた）の柱で進めること、他学会等との連携（委員を含め）を行うこと、SNS 中心に発信すること、とした。（資料 1～2）

〔審議事項〕

なし

膵癌腹腔細胞診標準化ワーキンググループ（委員長 平林 健一）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 膵癌腹腔細胞診の各施設での判定区分や検体処理方法をアンケート調査する。
2. 診断一致率や診断基準をコンセンサス会議で検討する。
3. 抗凝固剤や溶血剤の細胞形態への影響を検討する。
4. 本ワーキンググループで検討した取り扱い方法が、次の膵癌取扱い規約に掲載されることが決定している。7月に発刊予定である。

〔審議事項〕

なし

その他

〔報告事項〕

1. 2023・2024年度委員会構成（0.03\_2023・2024年度委員会構成）
2. 今後のスケジュール

〔審議事項〕

1. 細胞診および癌検診プログラムの精度管理に関して、専門医ならびに検査士で検討する理事長直属ワーキンググループ立ち上げについて（岡本 愛光 理事長）

審議結果⇒承認

質疑：

佐々木 寛 監事： 子宮頸がん検診において将来 HPV 単独検診が導入された場合、細胞診の数がかなり減少することが予想され、スクリーニングを担っていた検査士が職を失うことになる可能性がある。そうすると、当学会の社会に対する貢献度も低下し、学会員の減少につながる可能性もあり、今のうちから将来に向けた対策を学会として検討していくべきと考える。

藤井 多久磨 理事： p16 免疫細胞染色をスクリーニングのアルゴリズムに導入するかを学会として検討していくべきであると考えている。

---

以上でインターネット会議システムを併用した本理事会は、終始異状なく議題の審議を終了した。


2023年7月19日

この議事録が正確であることを証します。

理事長 岡本 愛光

岡本愛光 

監事 長村 義之

長村義之 

監事 佐々木 寛

佐々木寛 

監事 土屋 眞一

土屋眞一 